

書道習学の道

北大路魯山人

青空文庫

世間、書を説く者は多いが、それは必ず技巧的にのみ観察したものであり、かつ、外見にのみ凝視することに殆ど決定的に偏している。すなわち、書家の書がそれである。ゆえに遠い昔はいざ知らず、近代では書家の書にうまい書があつた例は皆無といつてよい。全く書を専門に教える習字の先生から尊ぶべき書が生まれ、た試しはない。この一事實の現われは誰にとつても、うかうかと書家の教えを蒙る訳にはゆかない。

書家の書というのは、なぜそんなに価値がないか。書家の習字法は、なぜそんなに偏するか。それを一言にしていうならば、書家に芸術がないからという他はないのである。ついでながら美術

もないからである。近い例としては市河米庵、巻菱湖、貫い名海屋、長三洲、日下部鳴鶴、巖谷一六、吉田晚稼、きかない、おおく、ちようさんしゆう、くさかべめい、かく、いわやいちろく、よしだばんか、かない、こんどう、むらたかいせき、おのがどう、なかばやしごちく、ながさかせきた、金井金洞、村田海石、小野鷺堂、中林梧竹、永坂石、い埭等……みな芸術を解するところがないばかりでなく、美術を識らなかつた。ために書道を誤認していた。従つて後に遺るべき尊き書は生まれることがなかつた。その中、辛かろうじて貫名海屋ひとりか若干実を識るのみであつて、他はいずれも俗流で一時を鳴らしたに過ぎない。

習字の要訣というのは、俗書に陥らざる理解と用心が肝要である。

書に限らないが、書はすなわち、身につく所にまで進まなければ

ばならない。手につく所までは誰しも行くが、身につく所には大概至らないで終るものである。身につくというのは、稽古離れする時の出来栄えである。稽古離れということは、その先入主ともなるべき最初の心掛けが重き役目を勤める。

（昭和九年）

青空文庫情報

底本：「魯山人書論」 中公文庫、中央公論新社

1996（平成8）年9月18日初版発行

2007（平成19）年9月25日3刷発行

底本の親本：「魯山人書論」 五月書房

1980（昭和55）年5月

入力：門田裕志

校正：木下聡

2020年5月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

書道習学の道

北大路魯山人

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>